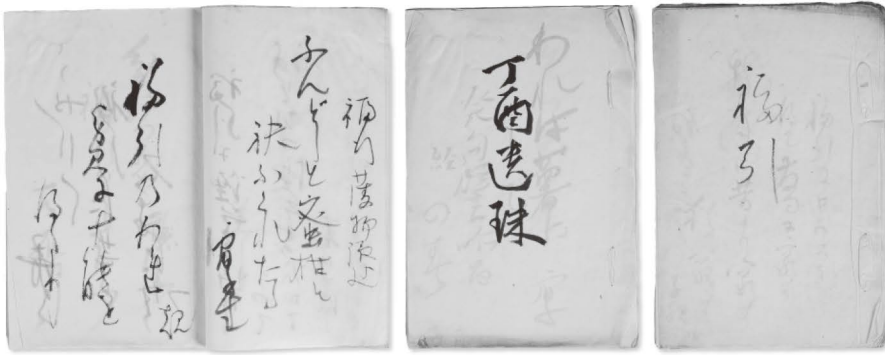


財団法人子規庵保存会設立 90 周年

財団法人子規庵保存会は、昭和3年7月18日に子規妹の正岡律を初代会長として設立認可されました。会員は河東秉五郎（碧梧桐）、高濱清（虚子）、寒川陽光（鼠骨）、五百木良三（飄亭）香取秀治郎（秀眞）、佐藤安之助（肋骨）、中村銈太郎（不折）でした。

昭和20年の戦火による子規庵焼失と再建を経て、現在は保存会設立者達の遺志を継ぐボランティアにより、公開事業と子規庵維持保存事業を続けています。

【特別展示1】 「子規の歳旦 2 —福引—」



明治30年から始まったとされる子規庵の正月行事「歳旦帳」。数年前より子規庵に寄託された資料の調査を進めて参りました。「丁酉遺珠」と題された歳旦帳は、子規新出句を始めとして、子規と弟子たちが福引遊びに興じる賑やかな子規庵の正月が感じられる句集です。

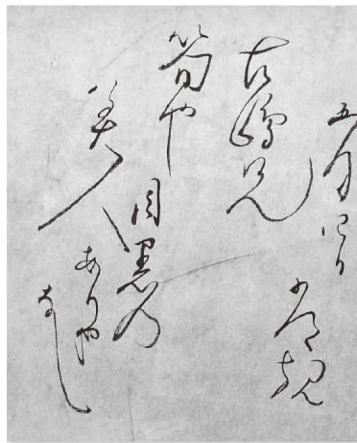
本展示では、子規庵保存会設立90周年を記念して、今までその所在と全容が明らかにされていなかった「明治30年歳旦帳」2冊を初公開いたします。

【特別展示2】 「筍や目黒の美人ありやなし」

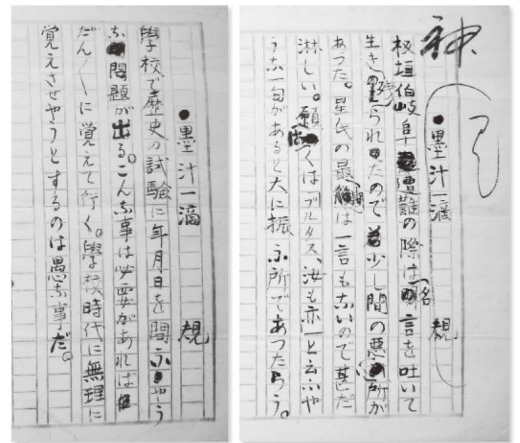
子規生誕150年の昨年、子規庵に寄贈された貴重な資料を、ご寄贈者に心から感謝の意を表し、特別展示をいたします。

【子規書簡の句】 明治35年5月4日、新聞「日本」の同僚である古島一雄宛に子規が送った書簡の文末「筍や目黒の美人ありやなし」の句。子規と古島一雄の親交の深さを感じられる書簡を初展示いたします。

【墨汁一滴】律代筆原稿 子規の妹律は、献身的な看護人のみがクローズアップされてきましたが、一所懸命に子規の創作活動を支えようとした律の思いが込められた生原稿を初展示いたします。



子規書簡の句



「墨汁一滴」律代筆原稿

【子規遺品展】

病牀の子規遺品から
曼陀羅他を特別展示いたします。



子規庵までの地図

